

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人千寿福祉会		
事業所名	グループホーム清和 (1棟)		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	令和 1 年 11 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligosyoCd=3393900026-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 1 年 11 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり、緑あふれる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり、花の手入れを利用者様と一緒にしている。また、畑を作り、季節ごとの野菜を育て、収穫し、食卓に提供しています。今年は稲を植え、日々育っていく様子を楽しみにし、田植え、稲刈りを行った。庭では犬を飼っており、ご利用者様の癒しになっている。夏の夕涼み会を企画し、ご家族や夏ボラの中学生、近隣の住人を招待し楽しい時間を過ごして頂きました。フラワー教室など、地域のボランティアを招いて交流を行っています。また、四季を感じて頂けるよう、初詣、お花見、コスモス観賞、もみじ狩り、地域の催し物など、外出の機会を持つようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状況に応じてテーブルやソファ、テレビの配置を変えるなど、日常的に居心地よく過ごせるよう工夫すると共に、利用者が落ち着いて生活できるように配慮している。また、日常生活において残存能力や機能が発揮できるよう、各利用者に役割を担ってもらうことで生きがいや自信に繋がっており、穏やかに自立した生活が出来ている。そして、2ヶ月に1度、避難訓練や勉強会を行うなど、災害に対する防災意識が高く、事業所一丸となって取り組んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの時間を利用して事業所理念を復唱することで、常に心に留め日々の介護に活かしている。また、毎月の目標を個々の職員が月替わりで担当になり、目標を決めている	毎朝申し送りの後、各ユニットごとに理念を復唱している。また、さらなる理念の共有・浸透を図るために、毎月職員が気になることを持ち回りで発表し、それを事務所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生のボランティアを受け入れている。夏の夕涼み会には、夏ボラの中学生や、近隣の住人を招待し、交流している	事業所主催の夕涼み会に中学生のボランティアが来たり、地域の神社やお寺の祭りに利用者と一緒に参加したりするなど、日常的に地域交流している。また、近所の人が柿や桃を差し入れてくれたりするなど、地域の一員として気にかけてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度、職員が一人キャラバンメイト養成研修を終了した。地域での認知症サポーター講座開講の祭には事業所での支援の方法等を活かしていきたいと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様、ご家族、地域の方や町役場の担当者、他施設の方へ出席頂いて、活動報告、ご利用者の入退居、入退院状況を報告するほか、ホームの課題や困難事例などを議題にあげ、感想やアドバイスをもらい、サービスの向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、5月は家族メインの会議となっている。活動報告だけでなく、課題や困難事例について話し合ったり、利用者の対応方法や職員に対するセクハラ行為について具体的にアドバイスを貰ったりするなど、生きた会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議や町主催の会合などで運営状況や日頃の様子を伝えて、協力関係を築くよう努めている	各ユニットの管理者が窓口となり、困難事例があれば電話したり伺ったりして、アドバイスや助言を貰っている。また、毎月行うネットワーク会議や運営推進会議の中で積極的に取り組み状況を伝えたり、町主催の勉強会や研修に参加したりしながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施しており、身体拘束のないケアを実践している	毎月1回、職員会議の中で研修を行っている。また、グループホーム協会主催の研修にも参加している。マニュアルを整備し、全職員に周知すると共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、虐待やそれにつながりかねない不適切ケアについて話し合いを行い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を利用している方がおられる。今後も必要と考えられる利用者と関係機関との橋渡しをして、制度を活用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にあらかじめ利用料やサービス内容について資料を提示し疑問や不安な点については時間をかけて丁寧にお答えするよう努め、理解、納得を図っている。改定の際には文章にて提示、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時やケアプラン更新時など定期的に意見や要望を尋ねている。ご利用者の要望はその都度反映できるよう柔軟に対応している	意見箱を設置したり、面会時に日頃の様子を伝えたりしながら、意見や要望を聞き取っている。出た意見や要望は、洋服のローテーションや生活リハビリなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や日常的な職員との会話から意見や提案を拾い上げ運営に反映させるようにしている	職員会議や申し送りノートを活用しながら、意見や要望を聞き取っている。出た意見や提案は、希望休や有休の取得、夜勤の回数、庭の改修工事などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・昇格の基準を明確に示し、職員登用制度、実務者研修費の助成や資格の取得など向上心を持っていけるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に合わせた研修を受講できるような年度初めに計画を立て、全職員が法人内外の研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりにはできるだけ出席し同業者と交流している。今年はグループホーム部会で勉強会として岡山市の旭川荘への視察に参加した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、話をお聞きし疑問にお答えするなど安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていたこと、今後の生活で不安に思っていることなど時間を掛けて耳を傾けホームでの対応や生活について丁寧に説明することで信頼してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、家事に参加してもらうことで、感謝される場面を作り自分の居場所と役割を実感し暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は手紙や来訪時、またはお電話でお伝えし本人に必要と判断したときにはご家族様に協力をお願いするなど共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた美容院が利用できるように支援したり、地域の行事に参加できる機会を作っている。	職員と一緒に元職場や墓参りに行ったり、以前いた施設の友達に手紙を出したりするなど、馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。また、家族や近所の人が来訪しやすいよう、気持ちよく過ごしやすい環境を作ったり、お茶を出してゆっくり過ごしてもらえる様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動を通して共通の話題、共通の知り合いなどの話ができるよう配慮している。また、テレビ前のソファでは、好きな場所に座り、隣同士での会話を楽しまれています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へのスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	日常生活の中で暮らしの希望等を把握している。困難な場合は、利用者の表情や仕草、言動等から検討している。また、ビールや嗜好品を提供したり、将棋の相手になったりして、満足感を得てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やお家族からの聞き取りや以前利用していた事業所やケアマネジャーからも情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情、行動など介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行いご本人の思いを大切にすることを根本に、ご家族、主治医、看護師に相談、助言を頂きながら介護計画の作成をしている。	毎月1回、計画作成担当者が中心となり、ケース会議の中で意見やアイデアを出し合い、個々に沿ったプランを作成している。見直しは、利用者の状況に合わせて対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様に寄り添うことで小さな気づきを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力頂いているが、日々の生活を知っている職員の付添が良い場合や緊急性の高い場合は職員が対応するなどサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや公民館での催し物があれば足を運び、馴染みの風景や昔の思い出を懐かしむ事ができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ付き添い、主治医にご利用者様の状態をお伝えしている。診察結果はご家族にも報告しご家族の思いもお聞きしながらより良い医療が受けられる様支援している。	協力病院がかかりつけ医であり、4週間に1回、職員が付き添っている。また、週1回協力病院から看護師が訪問しており、意見やアドバイスをもらいながら24時間体制で適切な医療を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問による健康チェック、24時間オンコール対応で急変時など利用者様が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院、訪問看護師との信頼関係が築けている為迅速かつスムーズな対応で連携体制が取れている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの診断、治療計画をご家族様と一緒に聞き、話し合い、方針を立てチームの支援に取り組んでいる。	入居前に方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は主治医が利用者・家族に説明し、医療方針等を決定している。	看取りの勉強会の開催に期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い実践力を身に付けるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の時間帯や方法を見直し、スキルアップを図っている。また隣接する同法人事業所、地元消防団とも協力体制を築いている。	2ヶ月に1回、避難訓練又は勉強会を行っている。消防署の方から災害に関する雑学や知識を学んだり、事例検討を通じて、災害時の協力体制等の重要性を学んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いだけでなく、声のトーンにも気を使い対応している。個室へは断りをしてから入室している	トイレ誘導時、側に行き声かけしたり、着替える時にパーテーションを用意したりするなど、個々の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、呼称は「〇〇さん」で統一している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気を作ると共に、ご自分で選択できるサービス提供を心掛けている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと思いを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やお化粧品の買い物の付添又は購入の代行を行い、おしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや毎月の行事食等での食材きり、個々の能力に応じて全員参加して頂いて食事に関心が持てる様な支援をしている。	忘年会やクリスマス会でオードブルを注文したり、正月におせちを提供したりするなど、食事が楽しくなるように工夫している。また、誕生日メニューや行事食もあり、利用者の食欲を掻き立てている。	食事メニューの掲示に期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態は状況に応じて対応し、水分が取りにくい方は、好みの飲み物やゼリーなどを用意して対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声かけ、舌磨きを行っている。必要な方は歯科訪問診療、歯科衛生士の口腔ケアを受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立に向けた支援を行っている。	基本、各利用者の排泄パターンに合わせて支援しているが、個々のリズムやペースでトイレに行く人もいる。排便も含めて管理しており、失敗しない様、羞恥心に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩や体操で身体を動かす時間を設けており、無理なく水分補給が出来るよう色々な飲み物を用意し選択出来る様に工夫している。1日1本ビフィズス菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回との原則はあるが、その日の本人の要望に応じて対応している。入浴されない方には更衣、清拭、足浴など、個々に沿った支援をしている	週3回の入浴を基本とし、希望すれば毎日でも入浴可能である。清拭、足浴、シャワー浴にも対応している。また、入浴する曜日でも変更可能であり、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を活用しながら、楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、模様替え、照明など環境を整えて安心して気持ちよく眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに入れ、副作用等について確認出来るようにしている。体調の変化は記録し、素早く看護師、主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、ゴミ出しなどそれぞれが役割を持って頂いている。またぬりえ、書き取り、計算問題、貼り絵、手芸などそれぞれの好みに応じて提供するようになっている。将棋好きの方には職員が将棋の相手をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡を入れ協力をして頂いている。近所の飲食店へお酒を飲みに行く計画もたてている。	散歩やゴミ出しが日常的に行われている。また、町内をドライブしたり、総社の五重塔や高粱の桜、真庭のコスモスを見に行ったりしている。そして、家族と毎週末自宅に戻ったり、墓参りや法事等に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で管理され外出時や毎週移動販売での買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用して頂いている。手紙などは必要に応じて切手を購入したり、ポストへの投函を代行している。利用者様の中には携帯電話を持たれている方もおり、自由に電話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物やお花で彩りを添えたり、季節にあった創作活動をし作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	壁面に季節に合った作品を掲示したり、テーブル上に季節の花を飾ったりするなど、身近に季節感が感じられるように配慮している。また、状況に応じてテレビやソファの位置を変えるなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳み台スペース、個々のテーブルの席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れたものを持ち込んで頂いたり、写真を飾ったりして家庭的な雰囲気作りにも努めている。また殺風景にならないよう観葉植物を置くなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家族写真や趣味・嗜好品(ぬいぐるみ、キーボード、ラジカセ等)に囲まれた室内は、利用者にとって居心地よい空間となっている。また、家具の配置は利用者の状態・状況に合わせて行っており、ゆったりと寛げる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリー建築となっており、ぐらりと見渡せるワンフロア構造となっている。安全で解りやすいことで自立した生活を送ることが出来る様工夫されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人千寿福祉会		
事業所名	グループホーム清和 (2棟)		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	令和 1 年 11 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligosyoCd=3393900026-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 1 年 11 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり、緑あふれる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり、花の手入れを利用者様と一緒にしている。また、畑を作り、季節ごとの野菜を育て、収穫し、食卓に提供しています。今年は稲を植え、日々育っていく様子を楽しみにし、田植え、稲刈りを行った。庭では犬を飼っており、ご利用者様の癒しになっている。夏の夕涼み会を企画し、ご家族や夏ボラの中学生、近隣の住人を招待し楽しい時間を過ごして頂きました。フラワー教室など、地域のボランティアを招いて交流を行っています。また、四季を感じて頂けるよう、初詣、お花見、コスモス観賞、もみじ狩り、地域の催し物など、外出の機会を持つようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状況に応じてテーブルやソファ、テレビの配置を変えるなど、日常的に居心地よく過ごせるよう工夫すると共に、利用者が落ち着いて生活できるように配慮している。また、日常生活において残存能力や機能が発揮できるよう、各利用者に役割を担ってもらうことで生きがいや自信に繋がっており、穏やかに自立した生活が出来ている。そして、2ヶ月に1度、避難訓練や勉強会を行うなど、災害に対する防災意識が高く、事業所一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの時間を利用して事業所理念を復唱することで、常に心に留め日々の介護に活かしている。また、毎月の目標を個々の職員が月替わりで担当になり、目標を決めている	毎朝申し送りの後、各ユニットごとに理念を復唱している。また、さらなる理念の共有・浸透を図るために、毎月職員が気になることを持ち回りで発表し、それを事務所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生のボランティアを受け入れている。夏の夕涼み会には、夏ボラの中学生や、近隣の住人を招待し、交流している	事業所主催の夕涼み会に中学生のボランティアが来たり、地域の神社やお寺の祭りに利用者と一緒に参加したりするなど、日常的に地域交流している。また、近所の人が柿や桃を差し入れてくれたりするなど、地域の一員として気にかけてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度、職員が一人キャラバンメイト養成研修を終了した。地域での認知症サポーター講座開講の祭には事業所での支援の方法等を活かしていきたいと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様、ご家族、地域の方や町役場の担当者、他施設の方に出席頂いて、活動報告、ご利用者の入退居、入退院状況を報告するほか、ホームの課題や困難事例などを議題にあげ、感想やアドバイスをもらい、サービスの向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、5月は家族メインの会議となっている。活動報告だけでなく、課題や困難事例について話し合ったり、利用者の対応方法や職員に対するセクハラ行為について具体的にアドバイスを貰ったりするなど、生きた会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議や町主催の会合などで運営状況や日頃の様子を伝えて、協力関係を築くように努めている	各ユニットの管理者が窓口となり、困難事例があれば電話したり伺ったりして、アドバイスや助言を貰っている。また、毎月行うネットワーク会議や運営推進会議の中で積極的に取り組み状況を伝えたり、町主催の勉強会や研修に参加したりしながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施しており、身体拘束のないケアを実践している	毎月1回、職員会議の中で研修を行っている。また、グループホーム協会主催の研修にも参加している。マニュアルを整備し、全職員に周知すると共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、虐待やそれにつながりかねない不適切ケアについて話し合いを行い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業を利用している方がおられる。今後も必要と考えられる利用者と関係機関との橋渡しをして、制度を活用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にあらかじめ利用料やサービス内容について資料を提示し疑問や不安な点については時間をかけて丁寧にお答えするよう努め、理解、納得を図っている。改定の際には文章にて提示、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時やケアプラン更新時など定期的に意見や要望を尋ねている。ご利用者の要望はその都度反映できるよう柔軟に対応している	意見箱を設置したり、面会時に日頃の様子を伝えたりしながら、意見や要望を聞き取っている。出た意見や要望は、洋服のローテーションや生活リハビリなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や日常的な職員との会話から意見や提案を拾い上げ運営に反映させるようにしている	職員会議や申し送りノートを活用しながら、意見や要望を聞き取っている。出た意見や提案は、希望休や有休の取得、夜勤の回数、庭の改修工事などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・昇格の基準を明確に示し、職員登用制度、実務者研修費の助成や資格の取得など向上心を持っていけるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に合わせた研修を受講できるよう年度初めに計画を立て、全職員が法人内外の研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりにはできるだけ出席し同業者と交流している。今年はグループホーム部会で勉強会として岡山市の旭川荘への視察に参加した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、話を聞きし疑問にお答えするなど安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていたこと、今後の生活で不安に思っていることなど時間を掛けて耳を傾けホームでの対応や生活について丁寧に説明することで信頼してもらえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、家事に参加してもらうことで、感謝される場面を作り自分の居場所と役割を実感し暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は手紙や来訪時、またはお電話でお伝えし本人に必要と判断したときにはご家族様に協力をお願いするなど共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた美容院が利用できるように支援したり、地域の行事に参加できる機会を作っている。	職員と一緒に元職場や墓参りに行ったり、以前いた施設の友達に手紙を出したりするなど、馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。また、家族や近所の人が来訪しやすいよう、気持ちよく過ごしやすい環境を作ったり、お茶を出してゆっくり過ごしてもらえる様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢も様々で、比較的年齢が若い方が高齢の方のお手伝いをしたり、手をつないで前庭の散歩をしている。利用者同士で微笑ましい交流が見られる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へのスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	日常生活の中で暮らしの希望等を把握している。困難な場合は、利用者の表情や仕草、言動等から検討している。また、ビールや嗜好品を提供したり、将棋の相手になったりして、満足感を得てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やお家族からの聞き取りや以前利用していた事業所やケアマネジャーからも情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情、行動など介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行いご本人の思いを大切にすることを根本に、ご家族、主治医、看護師に相談、助言を頂きながら介護計画の作成をしている。	毎月1回、計画作成担当者が中心となり、ケース会議の中で意見やアイデアを出し合い、個々に沿ったプランを作成している。見直しは、利用者の状況に合わせて対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様に寄り添うことで小さな気づきを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力頂いているが、日々の生活を知っている職員の付添が良い場合や緊急性の高い場合は職員が対応するなどサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや公民館での催し物があれば足を運び、馴染みの風景や昔の思い出を懐かしむ事ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ付き添い、主治医にご利用者様の状態をお伝えしている。診察結果はご家族にも報告しご家族の思いもお聞きしながらより良い医療が受けられる様支援している。	協力病院がかかりつけ医であり、4週間に1回、職員が付き添っている。また、週1回協力病院から看護師が訪問しており、意見やアドバイスをもらいながら24時間体制で適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問による健康チェック、24時間オンコール対応で急変時など利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院、訪問看護師との信頼関係が築けている為迅速かつスムーズな対応で連携体制が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの診断、治療計画をご家族様と一緒に聞き、話し合い、方針を立てチームの支援に取り組んでいる。	入居前に方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は主治医が利用者・家族に説明し、医療方針等を決定している。	看取りの勉強会の開催に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の時間帯や方法を見直し、スキルアップを図っている。また隣接する同法人事業所、地元消防団とも協力体制を築いている。	2ヶ月に1回、避難訓練又は勉強会を行っている。消防署の方から災害に関する雑学や知識を学んだり、事例検討を通じて、災害時の協力体制等の重要性を学んだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いだけでなく、声のトーンにも気を使い対応している。個室へは断りをしてから入室している	トイレ誘導時、側に行き声かけしたり、着替える時にパーテーションを用意したりするなど、個々の誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、呼称は「〇〇さん」で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気を作ると共に、ご自分で選択できるサービス提供を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと思いを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やお化粧品の買い物の付添又は購入の代行を行い、おしゃれや身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛りつけ、配膳、お茶つぎ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭き、毎日の献立表記など個々の能力に応じて参加する事で食事に関心を持ち、楽しみになるよう支援をしている	忘年会やクリスマス会でオードブルを注文したり、正月におせちを提供したりするなど、食事が楽しくなるように工夫している。また、誕生日メニューや行事食もあり、利用者の食欲を掻き立てている。	食事メニューの掲示に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態は状況に応じて対応し、水分が取りにくい方は、好みの飲み物やゼリーなどを用意して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声かけ、舌磨きを行っている。必要な方は歯科訪問診療、歯科衛生士の口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立に向けた支援を行っている。	基本、各利用者の排泄パターンに合わせて支援しているが、個々のリズムやペースでトイレに行く人もいる。排便も含めて管理しており、失敗しない様、羞恥心に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩や体操で身体を動かす時間を設けており、無理なく水分補給が出来るよう色々な飲み物を用意し選択出来る様に工夫している。1日1本ビフィズス菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る環境を整え、入用剤等で楽しみになる工夫を心掛けている。体調不良や気が向かない方など状況に応じて更衣、清拭、足浴など個々に沿った支援をしている。	週3回の入浴を基本とし、希望すれば毎日でも入浴可能である。清拭、足浴、シャワー浴にも対応している。また、入浴する曜日でも変更可能であり、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を活用しながら、楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、模様替え、照明など環境を整えて安心して気持ちよく眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに入れ、副作用等について確認が出来るようにしている。体調の変化は記録し、素早く看護師、主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、ゴミ出しなどそれぞれが役割を持って頂いている。またぬりえ、書き取り、計算問題、貼り絵、手芸など用意しそれぞれの好みに応じて提供するようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡を入れ協力をして頂いている。	散歩やゴミ出しが日常的に行われている。また、町内をドライブしたり、総社の五重塔や高梁の桜、真庭のコスモスを見に行ったりしている。そして、家族と毎週末自宅に戻ったり、墓参りや法事等に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で管理され外出時や毎週移動販売での買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用して頂いている。手紙などは必要に応じて切手を購入したり、ポストへの投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物やお花で彩りを添えたり、季節にあった創作活動をし作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	壁面に季節に合った作品を掲示したり、テーブル上に季節の花を飾ったりするなど、身近に季節感が感じられるように配慮している。また、状況に応じてテレビやソファの位置を変えるなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳み台スペース、個々のテーブルの席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れたものを持ち込んで頂いたり、写真を飾ったりして家庭的な雰囲気作りに努めている。また殺風景にならないよう観葉植物を置くなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家族写真や趣味・嗜好品(ぬいぐるみ、キーボード、ラジカセ等)に囲まれた室内は、利用者にとって居心地よい空間となっている。また、家具の配置は利用者の状態・状況に合わせて行っており、ゆったりと寛げる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリー建築となっており、ぐるりと見渡せるワンフロア構造となっている。安全で解りやすいことで自立した生活を送ることが出来る様工夫されている。		